

## 当院の平成 31 年度のレジデント・専攻医募集予定と新・内科専門医制度への対応について

当院は基幹型臨床研修指定病院かつ内科学会認定教育病院として、初期研修医や内科レジデントの教育・研修に力を入れており、新・内科専門医制度においても当院を基幹施設とし、東京都の国際医療研究センター病院と江戸川病院、千葉県東京ベイ・浦安市川医療センターを連携・特別連携病院とした研修プログラムを運営しております。

旧制度では 1 から 3 年間の希望研修期間で 3 から 8 名のレジデントを毎年採用しておりました。新専門医制度では 1 学年 6 名の定員となっており、現在レジデント 3 学年併せて新制度で 4 名、旧制度で 7 名が研修しています。

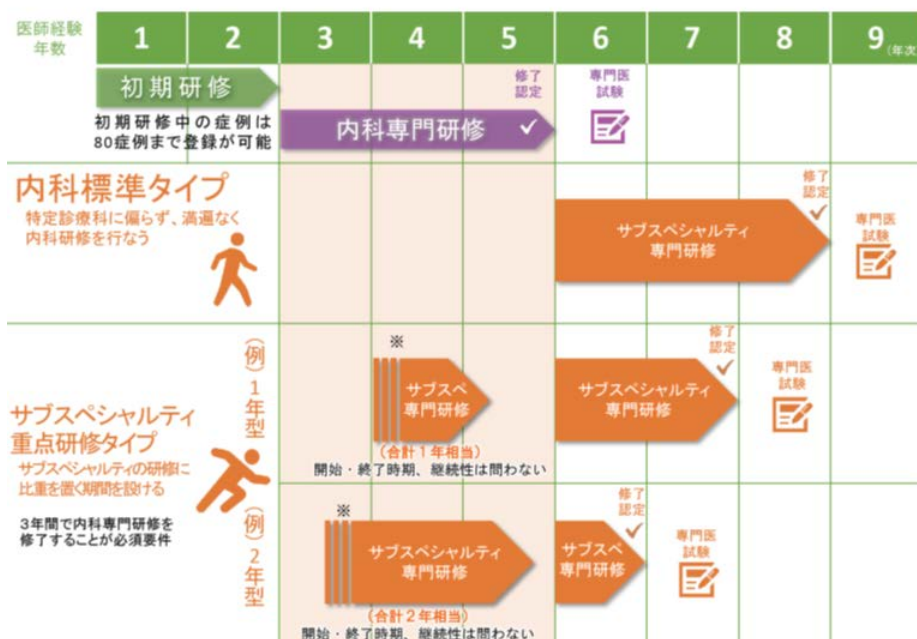
新制度における内科指導医に該当する常勤医は 25 名おり、うち 14 名は総合内科専門医も取得しています。また内科系診療科で臨床研修指導医を取得している常勤医は 18 名と、レジデント・専攻医に対して十分な指導医が確保されています。

内科は大きく 3 つに分かれ、肝炎・免疫研究センターを併設し、研究・診療体制の充実した消化器・肝臓内科、摂食障害や心身症を中心とした診療で我が国有数の心療内科、各内科系診療科が垣根を低くして相互に連携して総合的に診療する統合内科（リウマチ膠原病、糖尿病内分泌代謝、総合、循環器、呼吸器、脳神経、感染症）があります。

また国立研究開発法人国際医療研究センターに属しており、臨床研究に力を入れており、研修医・レジデントへの指導や費用面のサポートも充実し、国内学会に限らず、国際学会で発表したり英語論文を書いたりすることができます。

### <研修スケジュール>

#### 内科専門研修とサブスペ専門研修の連動研修(並行研修)の概念図



基幹病院である国府台病院で 3 年間のうち 2 年以上に渡って研修をします。専攻医が **Subspecialty** として志望する消化器・肝臓内科、心療内科、統合内科のいずれかから研修を開始する予定です。その後心療内科志望は統合内科と消化器・肝臓内科、消化器・肝臓内科志望は統合内科、統合内科志望は消化器・肝臓内科を 1 年目にローテーションします。目安として、消化器肝臓内科志望は統合内科を 5 か月間、統合内科志望は消化器肝臓内科を 2 か月間、心療内科志望は統合内科と消化器肝臓内科を計 7 か月間研修することになり、残りの時間は志望科での研修にあてます。心療内科志望以外では心療内科のローテートは必修ではありませんが、希望に応じて選択することも可能です。

連携施設での外部研修は原則 2 年目を予定していますが、状況により前後する可能性があります。連携施設では主に血液内科、腎臓内科など、当院のみでは十分な専門研修を受けられない領域の研修を予定していますが、自分の志望する領域について連携施設で研修することもできます。外部での研修は半年間以上であり、残りの期間は当院の志望科での研修にあてられます。2 年間の研修で内科専門医を取得するための症例数などは満たせると見込んでいます。

研修 3 年目は **subspecialty** 研修のコース（消化器・肝臓内科、心療内科、統合内科）を選択しますが、ローテーションを継続して内科全般を広く学ぶことも可能です。また症例数等が十分に経験でき、より早くから **subspecialty** を重点的に研修することを希望すればフレキシブルに対応して専門医取得にスムーズにつなげることも可能です。病院規模と比較して総合内科専門医の取得者が多いことも、当院で総合的な内科研修が受けられることを示しています。

### <subspecialty 専門医取得>

各種学会の認定施設でもあることから、専門医も取得でき、特に消化器内科系の専門医、糖尿病専門医、リウマチ専門医、総合内科専門医などは多くの取得実績があり、また複数の専門医を取得することもよくあります。現在 13 ある内科の基盤学会に、消化器内視鏡学会は追加されることが決定し、心療内科も今後追加されることが見込まれています。

内科関連の主な学会認定は以下の通りです。

日本内科学会認定医制度教育病院

日本消化器病学会認定施設

日本肝臓学会認定施設

日本糖尿病学会認定教育施設

日本リウマチ学会教育施設

日本老年医学会認定施設

日本感染症学会研修施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本アレルギー学会専門医教育研修施設  
日本呼吸器学会専門医制度関連施設  
日本循環器学会専門医研修関連施設  
日本心療内科学会認定研修施設  
日本心身医学会認定研修診療施設  
日本消化管学会胃腸科指導施設  
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
日本動脈硬化学会認定教育病院  
日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設  
日本救急医学会救急科専門医指定施設

### <当院の特徴・強み>

・各臓器別というほど細分化されていないので、受け持ち症例の過不足の調整などもフレキシブルに行いやすく、複数領域の疾患を合併した患者も含めて、内科を総合的に研修できます。短期間の各臓器別内科ローテーションを繰り返すことなく、落ち着いて働くことができます。プログラムの人数も一学年 6 名を予定しており、指導医も十分に擁していることから、個々の興味やスキルに応じてきめ細かい研修が受けられます。医長以外は研修医も含めて全員同じ医局にデスクが用意されているので、各科との相談もスムーズで気軽に行えます。

・仕事の量にはある程度ゆとりがあり、主治医制ではなく当直医制であり、自己学習の時間や臨床研究の時間も比較的十分にとれますし、自身や家庭のための時間もとれます。院内には保育所もあり、当科にも利用しながら勤務しているレジデントもいますし、当直なども個別に相談して対応しています。

・前身が国立精神神経センターであり、現在も精神科が外来・入院の大きなウェイトを占める総合病院であり、日本有数の摂食障害治療の実績があつて千葉県摂食障害治療支援センターも設置している心療内科もあることから、近年増加していて厚労省の指定する 5 大疾病に含まれる精神疾患を合併した身体疾患の診療の経験を積むことができます。精神疾患患者では生活習慣病や循環器系疾患が一般集団よりも多く、そのため生命予後が短いということもあり、精神疾患のある患者の内科疾患は非常に重要です。認知症も含めた精神疾患に苦手意識を持つ医師は多いと思いますが、当院で内科研修をすることで精神科の専門家になるわけではないものの、統合失調症などの精神疾患のある患者さんに慣れて普通に診療できるようになることは医師として大きな強みになると思います。

・臨床研究治験センターに臨床研究支援・相談のスタッフやデータベースがあり、さらに特定研究開発法人である国立国際医療研究センターや肝炎・免疫研究センターのリソースを使うこともでき、アカデミックな研修を積むための環境が整っています。症例報告だけでなく、希望する研修医やレジデントには積極的に臨床研究に取り組んでもらっています。内科で行っている臨床研究で、レジデントが筆頭演者として2016年度に発表したのは、糖尿病学会総会4演題、内科学会1演題、消化器病学会総会1演題、精神神経学会総会2演題、International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress and Asian Association for the Study of Diabetes 3演題でした。ほかにも地方会や研究会などでも症例報告や臨床研究の発表を積極的に行っています。

・千葉県市川市は豊かな自然環境のある文化都市で住環境もよく、また東京都に隣接し、市川駅から東京駅まで20分、新宿駅まで35分と都心へのアクセスも良好です。

#### <当院の弱み>

・以下の表のように、消化器・肝臓内科の入院・外来患者数がかなり多いのに対して、血液内科や腎臓内科は非常勤医師の外来のみであり、また必ずしも症例数が多いわけではない分野もあり、ICUもありません。ただし、総合内科の入院患者には血液、腎臓、神経、循環器、呼吸器を含めた様々な患者が入院しており、今までも内科認定医や総合内科専門医を何人も取得していますが特に問題ありませんでした。当院のみでも十分な症例経験は積めると見込んでいますが、連携病院での研修も含めると、専門医にふさわしい実力を身に着けることができると考えています。

2017年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器・肝臓内科	1,188	22,065
循環器内科	106	7,076
糖尿病・内分泌内科	710	19,289
総合内科		
呼吸器内科	120	2,566
神経内科	15	464
リウマチ科	183	6,393
心療内科	278	9,331

・土日も含めて朝から晩まで一生懸命働き、できるだけ多くの患者を受け持ち、手技を経験したいと考えている人には物足りないかもしれません。ただしレジデントの1年間の入院受け持ち患者数は、消化器科では120-160人、心療内科では60人以上、統合内科では150-200人程度であり、単に専門医をとるだけでなく、内科医として必要な経験を積むこ

とは十分にできる研修だと考えています。

### <消化器・肝臓内科の特徴>

当科での研修の特徴は、消化器・肝臓専門医を目指して消化器病領域全般にわたる幅広い知識と技術の習得ができる点です。症例数も豊富である事に加えて、消化器病学会・内視鏡学会・肝臓学会に所属する専門医・指導医のもとにマンツーマンの徹底した教育をうけることができ、効率的に知識と技術の習得を行う事が出来ます。また3年間の研修を通して消化器病学会、内視鏡学会、肝臓学会などの専門医取得に必要な症例の経験も可能です。消化管は内視鏡検査・治療が診療の中心となります。3年間のプログラムの中で *Helicobacter pylori* 関連胃炎に伴う内視鏡所見の読み方、疾病構造の考えかた、拡大内視鏡などの最新のツールを駆使した内視鏡診断の行い方などを学ぶことで、消化器科内科としての一般的な知識・技術からより専門的・高度な知識・技術を獲得していただきます。肝臓内科は研究機関である肝炎・免疫センターが併設されており、より専門的・高度な肝炎診療の研修が可能であり、また超音波治療を中心とした肝細胞癌に対しての治療手技の獲得も可能です。

一般診療のみならず、各学会での発表や論文発表なども積極的に行っており、外来・病棟業務のみでは獲得できない広い知見を得ることができます。まだ、学会発表や論文作成に慣れない若手の医師でも上級医の細かい指導のもと準備を進める事が出来ますので、安心して発表や論文作成を行う事が出来ます。

### <心療内科の特徴>

心療内科は身体の病気を従来の身体医学療法だけではなく、心理(精神)療法および行動科学的手法を併用して治していく診療科です。生活習慣病をはじめとする現代身体病の多くは様々なストレス(心理社会的要因)の影響を受けて発症・慢性化・難治化していく心身症としての側面があることが知られています。こうした症例に対して、薬物療法や手術だけではなく心理療法というアプローチができることが我々の強みです。

国府台病院心療内科は平成元年より診療を開始しており、平成30年現在では19床を有している我が国では最大規模の心療内科治療施設です。特に摂食障害学の治療に力を入れています。当科は平成29年に全国で4施設(当科以外では東北大学、浜松医科大学、九州大学)の、関東甲信越地域では唯一の摂食障害支援センターに国と千葉県から指定されました。重篤な身体合併症をもつ摂食障害の方々の治療を数多く経験しています。当科の後期研修では心身医学の基礎を身につけ、摂食障害患者さんの治療を経験しながら患者さんを全人的なアプローチで治療できるスペシャリストの育成を目標としています。

診療科長の河合は、日本心身医学会理事、日本心療内科学会理事、日本摂食障害学会常任理事、日本内視鏡学会常任理事を各学会から拝命しており、下段に示すように複数の競争的な研究費も獲得し、常勤医師4名で研究や学会活動を国内外で熱心に行っています。さ

らに、河合は、日本心身医学会、日本心療内科学会、日本摂食障害学会合同ワーキンググループ「神経性過食症への認知行動療法 (CBT-e)」の代表を務め、国内で認知行動療法の講習会を開催し、その普及を進めています。

非常勤では、それぞれ専門分野をもつ医師や臨床心理士が 10 名在籍しており、認知行動療法、自律訓練法、芸術療法、システムズアプローチ、東洋医学、内観療法、ヨガ療法、ユング心理学など様々な分野の指導を受けることが可能です。

#### 2018 年度心療内科 獲得研究助成事業

##### 1. 科研 B 2018 年度～平成 2020 年度研究 (B) 特設分野研究

分担 内受容感覚異常としての不定愁訴の健常 - 疾病の連続性

##### 2. 科研 C 2015 年度～2018 年度科学研究費 基盤研究(C)

分担 神経性食欲不振症の治療がもたらす脳機能の変化とその意義の解明

##### 3. 科研 C 2017 年～2020 年 科学研究費 基盤研究(C)

代表 神経性やせ症の低栄養への治療—グレリン活性化や心肺運動負荷試験の臨床応用

##### 4. 日本医療開発機構(AMED)

2017～2019 年度 分担 精神障害分野 摂食障害の診療支援ネットワークの指針と簡易治療プログラムの開発

##### 5. NCNP 研修開発費

2017～2019 年度 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神・神経疾患研究開発費 分担 心身症・摂食障害の治療プログラムと臨床マーカーの検証

##### 6. 厚労科研費

2018～2019 年度 分担 中枢性摂食異常症および中枢神経感作病態を呈する疾患群の脳科学的な病態解明と、エビデンスに基づく患者ケア法の開発

#### <統合内科の特徴>

統合内科では糖尿病・内分泌代謝内科、リウマチ膠原病科、総合内科、循環器科、呼吸器科、神経内科、感染症科などの各領域の専門医が緩やかに連携して一つの内科として診療にあたることで、複数かつ幅広い疾患をもった患者さんにも対応しています。統合内科の後期研修は、大学病院などでの後期研修のように臓器別の高度な専門性を追求するのではなく、患者さんを内科の視点で総合的に診療できる医師の育成を目標としています。カンファレンス等でも一つの症例に対して、様々な角度から教育的なアドバイスを受けることができます。

Nutrition Support Team や Infection Control Team や ICLS などの活動にも積極的に参加し、多職種と交流しながら幅広い視点を身につけることもできます。

現行制度のレジデントは内科認定医を取得後は、個々の希望に応じて、総合的に内科診療をしつつ、subspecialty の研修も深めていき、糖尿病専門医、リウマチ専門医、総合内科

専門医などを取得することが一般的であり、また多くの若手医師は複数の内科系専門医取得を目指して研修を積んでいます。特に当院は糖尿病の患者数が多く、指導体制も充実して専門医も毎年のように取得しており、現在のレジデント・フェローのうち 5 人が糖尿病学会に所属して専門医取得を目指しています。糖尿病専門医は 7 人ですが、全国の内科教育病院 423 施設で専門医が 7 人以上いるのは全国で 7 施設だけです。リウマチ専門医も現在 2 名が取得を目指しています。リウマチ専門医は 6 人ですが、全国の内科教育病院 423 施設で専門医が 5 人以上いるのは 12 施設です。

1 年目から総合内科外来も週 1 回担当し、初診の患者を診断・治療したり、慢性疾患のマネジメントを身に着けたり、入院・外来の一貫した長期間の診療で患者さんとの信頼関係を築くこともできます。2 年目以降は糖尿病外来やリウマチ外来などの専門外来を週 1 回担当しています。

臨床研究にも院内で最も力を入れ、成果を出しており、地方会での症例報告にとどまらず、一から指導して臨床研究に取り組んでもらい、国内学会総会や国際学会で発表し、原著論文にも取り組んでいます。

糖尿病しか診たくない、リウマチにしか興味がない、という人には向かないかもしれませんが、糖尿病やリウマチはしっかり身につけたいけど内科を幅広く勉強したい、内科で働きながら自分の専門分野を考えていきたい、という人には向いていると思います。

### <レジデントの声>

☆こんにちは！レジデント 3 年目の張替です。私は当院の雰囲気の良いから初期研修を当院で行い、その後も後期研修を引き続き行わせていただいております。

当院内科の特徴として、総合内科ということがあります。循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、膠原病内科、感染症内科の専門医が総合内科内にいるため、自分でわからない点に関しては専門医の意見を聞きやすい特徴があります。また、毎日朝にカンファがあるため様々な意見を聞くことができ、日々勉強させていただいています。疾患も肺炎や尿路感染症の他、膠原病や糖尿病など様々な疾患を受け持つことができます。わたくしも糖尿病専門医を目指しながら、様々な症例を受け持ち上級医から複数の視点から指摘を受けております。

また、当院では後期研修 1 年目から外来を開始します。そのため退院後も外来主治医になることもでき、患者さんと信頼関係を築くことができます。当初のうちは **common disease** であっても不安がありましたが、上級医に確認を行いながら進めることができたため安心でした。雰囲気がいいため上の先生たちにも気軽に質問をすることができるという点も当院の良い特徴だと思います。専門外来や甲状腺エコーも行うことができ、慣れるまで大変だとは思いますが、上の先生方がやりたい環境に整えてくれるため楽しく充実した生活を送れています。

当院は当直医制で週末など自分の時間を持てることも魅力の一つと考えています。院内

に保育所もあったり、産休・育休取得をとりやすい環境というのは女性医師にとっても魅力なのではないでしょうか。実際に産休・育休取得後に専門医試験を控えた女性医師もいます。

少しでも興味を持っていただいた方はぜひ当院に見学にお越しください。実際に来ていただくと当院の雰囲気や立地、強みや弱みなどいろいろ実感していただけたと思います。連絡お待ちしております！

☆皆さんこんにちは。後期研修3年目の川口明子と申します。

私は市川で生まれ、地元で働きたいという気持ちから当院で初期研修を行い、内科の雰囲気の良さに魅かれ、引き続き後期研修を行わせて頂いております。

当院内科は、スタッフ20名程度と病床数の割に多く、若手から上の先生まで幅広い年齢層です。症例は、呼吸器、循環器、そして一般内科(肺炎、UTI、骨髄炎などcommonな感染症や、血管炎、SLEなどの膠原病、糖尿病など)と、内科診療を行っていく上で重要な症例を各種経験する事が出来ます。いくつかの専門医の取得も可能です。各症例に1-3人程度が担当医となりますが、中堅から上の先生まで、皆熱心で質問しやすい先生ばかりで、余計なストレスはほぼありません。他科との垣根も低く、コメディカルも皆優しく、職場環境としては花丸です。外来診療も後期研修1年目から行う事ができ、研修医時代には分からなかった外来の面白さや難しさも経験させて頂いています。また、希望に応じて外部研修(他院での腎臓内科研修, 院内での消化器科, 放射線科など)も一定期間行う事ができ、手技としてエコーなども学べる環境にあります(腹部、頸動脈や甲状腺など)。

また、大学病院ではありませんが、臨床研究も行う事ができ、学会発表の機会も多く頂けるととても良い経験になっています(去年は海外での学会発表をさせて頂きました！)。

後期研修に入り、初期研修とくらべて新しいこと(外来や外勤, 検査など)がたくさん増え、慣れるまでは大変でしたが、上の先生方がこちらの気持ちを汲んでくれ、やりたい事を出る環境にして下さるので、楽しく充実した毎日が送れています。

週末も、重症者や仕事がある時は別ですが基本的には予定も入れやすく、長期休暇もしつかり頂けます(夏休み9日間)。外勤も可能ですし、子育てをしながら頑張っている女性レジデントもいます。外来棟、病棟ともに新しくとても綺麗です。

新専門医制度が始まり、色々と不安な点も多くあると思います。当院も基幹病院としてしっかりプログラムを準備し皆さんをお待ちしていますので、是非一度見学にお越し頂き、直接お話ししましょう。心よりお待ちしております。





e-resident のレジデント・指導医インタビューもご覧ください。

<https://www.e-resident.jp/interview/doctor/137>

<https://www.e-resident.jp/interview/senior/64>

☆消化器肝臓内科 後期レジデント 2年目の池上友梨佳と申します。初期研修から引き続き当院で後期研修を行っております。

私は学生時代に内視鏡に惹かれ、消化器内科医を志望しました。初期研修で当院の消化器肝臓内科を回った際に、上級医とレジデントの関係性や雰囲気、また診療内容を間近に見ることができ、後期研修を当院で行う事を決めました。

消化器肝臓内科は上級医が 6 人、レジデント・フェローの若手が 6 人であり、上級医と若手がほぼ 1 対 1 で指導を受けることが出来るチーム体制をとっています。上級医の先生方は年齢としては若い先生が多いため親しみやすく、また技術面でも知識の面でも非常に高レベルです。また週 1.2 回のカンファレンスでは上村院長や肝炎免疫センターの先生方のご指導のもと、プレゼンする患者さん一人一人に対して様々な視点からディスカッションする機会が設けられています。

技術面についてですが、上部下部内視鏡・腹部エコー・肝処置（生検や RFA）はそれぞれに第一線でご活躍する先生の下で学び、また医師の人数も多くはないため、多くの症例を直接学ぶことができます。そして、それぞれの分野で、上級医の先生はもちろんコメディカルの方々も、レジデントが学べる環境を温かく作ってくださいます。

さらに、日常業務だけではなく、学会発表での症例報告や臨床研究など、自身でやりたいという気持ちがあれば様々な機会をいただき、ご指導頂くことが可能です。私も後期研修 1 年目で 3 回の学会発表の場をいただきました。

また、日々の生活は楽しくてあっという間に 1 日が終わってしまいます。レジデント・フェロー同士もとても仲が良く、みんなで教えあい助け合い成長していきます。

最後に弱点と思われることですが、当院では緊急疾患が他院と比較すると少ないように思います。日中の止血等の緊急処置や夜間の呼び出しもあまり多くはありません。また、ICU での全身管理が必要な疾患も当院で診るのは難しいと思います。その点は、他院で一定期

間の研修を行う等の対策がとられています。

以上、長くなりましたが、毎日を楽しくかつ有意義に研修できる場所だと思いますので、少しでも興味を持っていただければ嬉しいです。



#### <2015年（平成27年）以前の医師国家試験合格者について>

当院では今まで、精神科や小児科の専門医をとった後に1-2年間内科に勉強に来たり、総合内科や外科をやっていたが消化器内科に変更したり、大学病院等でレジデントの研修をした後に当院でレジデントになったりという形で、医師4年目以降で内科レジデントとして採用されるケースもよくありました。平成31年度のレジデント採用に関し、新専門医制度に該当しない2015年以前の国試合格者も採用対象として考えており、若干名を募集する予定です。採用試験も新専門医制度と同日に行うことを検討しておりますが、新専門医制度自体がどうなるかわからない部分もありますので、まずはお問い合わせください。

\*各診療科のホームページもご覧ください。

\*見学は随時受け付けていますので、興味をもったらぜひ一度見に来てください。

[http://www.ncgmkohndai.go.jp/boshu/065/h30\\_new-resident.html](http://www.ncgmkohndai.go.jp/boshu/065/h30_new-resident.html)

\*ご不明な点などのお問い合わせは

・管理課庶務係長

[kouedu@hospk.ncgm.go.jp](mailto:kouedu@hospk.ncgm.go.jp)

・内科プログラム統括責任者 総合内科 酒匂

[dsako@hospk.ncgm.go.jp](mailto:dsako@hospk.ncgm.go.jp)